



校長室だより

第 4 6 号
令和4年2月1日(火)
大崎市立沼部小学校
校長 吉田 浩之

節分，そして立春

今日，校内テレビ放送で全校集会がありました。私が話した内容です。
(今回も両面になってしまいます。)

2月を迎えました。1年の中でも短い月であることから，2月は逃げるなど言われます。2月と言っても，まだ寒い日が続きますね。コロナにかからないようにすることも大事ですし，健康には気を付けて生活を充実させたいものです。あさって，2月3日が，冬と春を分ける節分で，4日が立春，春になります。昔は立春を一年の始まりと考えていたので，この時期の節分は大みそかでした。



©maki mikawa

そこで，今日は，節分についてお話しします。「節分」は，季節の分かれ目の日です。1年の中には，春，夏，秋，冬の四季があります。そこで，暦の上で春を迎える「立春」，夏を迎える「立夏」，というように「立秋」，「立冬」のそれぞれの季節の始まりの前日が「節分」になります。現在では，立春の前日のみが行事として残っていますが，節分そのものは，1年間に4回あるのです。

節分の行事は，皆さんがよく知っているように，豆まきをする習慣があります。豆まきは，今から1700年ほど前に中国から伝えられました。この行事は皆さんの周りに悪いこと，けがや病気，事故などが起きないことを願って行うのです。昔は，そのような悪いことが起きるのは，目には見えない鬼がやってくるからだと考えていたのです。

そこで，悪い芽が二度と出てこないようと炒った大豆，これを福豆と言いますが，福豆を節分の日の夜，家のドアや窓を開けて大声で「鬼は外，福は内」と叫びながらまきます。家の奥の部屋から順番に豆まきを行い，最後に玄関にまいて終わります。まき方は，上から投げないで，下から放るのが決まりなんだそうです。校長先生も初めて知ったことです。上から投げないのは「畑に豆をまく動作」を表し，豊作を願う気持ちが込められているといわれているのだそうです。そして，豆をまいた後は，素早くドアや窓を閉め，真夜中に二度と鬼が入ってこないようにします。それを終えると，豆まきの豆を当日の夜に自分の年齢より一つ多く食べるのです。これは，翌日の立春で一つ歳を重ねるので，来年の分も食べておくのです。豆を食べるのは「まめで健康になるように」

という意味の語呂合わせからきているのです。鬼を退治するパワーのある大豆を食べることで邪気を追い払い、病に勝つ力がつくと考えられています。

豆まき以外にも、いわしの頭などを焼いてヒイラギの枝に指し、それを門や家の軒下に飾り厄除けをします。ヒイラギのギザギザの鋭いとげは鬼の目を刺し、焼いたいわしは臭いを嫌がって鬼が来ないといわれています。

最近では、厄を巻き込むことができる巻き寿司を恵方巻として食べることも広まってきていま

す。恵方巻を切らずに一本のまま、その年の年神様の方向、今年は北北西だそうですよ。その方向を向いて願い事をしながら一気に食べるというものです。このように、長い年月の間に行事の姿が変わってきていますが、日本に伝わる伝統として、また、一人一人が今の自分の姿を顧みる機会として続いています。

このようにして、何百年も続いている歴史ある厄除け行事ですが、昔から鬼は人に災いをもたらす、目に見えないものでした。もしかしたらこのコロナの状況も鬼の仕業かもしれません。コロナのことは、ここではちょっと置いておいて、今、私たちが追い出すべき鬼は、どこにいるのかを改めて考えてみましょう。実は私たちの心の中に棲んでいるのです。皆さんが抱えている心の鬼は何でしょうか。本当はもっといい子になりたいのに、もっと思いやりの心で人の役に立ちたいと思っているのに、なかなかできないことがあります。やらなければならないときに、「めんどくさい」と後回しにしてしまうことはありませんか。心の中で邪魔しているのはどんな鬼ですか。節分を機会に自分の心の中にいる鬼は「鬼は外！」と追い払いたいですね。ちなみに、昨年校長先生のうちでは、「疫病退散！」と叫びながら豆まきをしました。



立春の頃の旬として、フキノトウがあります。この辺りでは「ばっけ」と呼ぶところもありますね。雪解けの土の中から顔をのぞかせるフキノトウは春一番の山菜です。若芽に蓄えられたエネルギーが独特の香りや苦味となり、冬の間こわばっていた体を目覚めさせ、新陳代謝を促すそうです。

確実に春は近づいてきていますが、コロナ感染者数が増加しています。手指の消毒、マスクの着用、換気など、できることを確実に行っていきましょう。